

県中学新人ハンド

ハンドボールの第20回浦添市長杯争奪第11回県中学生新人大会最終日は8日、ANAアリーナ浦添で男女決勝まで行った。男子は神森が仲西に27-25で競り勝ち、3年連続21度目の優勝。女子は仲西が沖繩東を31-22で下し、2年ぶり12度目の優勝を飾った。

男女の優勝チームは富山県で3月24日に閉幕する第19回春の全国選手権大会の出場権を得た。

男女の準優勝2校と代表決定戦を制した2校は3月16日から佐賀県で行われる九州選抜大会に出場する。

【男子】
▽準決勝
神 森 40-28 安 慶 田
仲 西 30-22 浦 添
▽代表決定戦
安 慶 田 25-22 浦 添
▽決勝
神 森 27(13-6)25 仲 西
▽優秀選手 國吉健太、東瀨永斗、金城藍希(以上神森)、宮城隼介、比嘉佑斗(以上仲西)、喜久本竜寛(安慶田)、大城凌一(浦西)

【女子】
▽準決勝
仲 西 27-18 浦 添
沖 繩 東 25-23 神 森
▽代表決定戦
浦 添 24-23 神 森
▽決勝
仲 西 31(14-10)22 沖 繩 東
▽優秀選手 島尻三夏、積美星空、大田千紗(以上仲西)、伊良波奈々、仲度ひまり(以上沖繩東)、徳山慈乃(浦添)、仲地七奈海(神森)



男子優勝の神森

神森3連覇 競り勝つ

残り4分好プレー連発



スポーツ

薄氷の勝利一。神森は仲西の後半の追い上げをかわし27-25で接戦を制した。7点リードで前半を折り返したが、終盤に足が止まり、後半残り4分で同点に追い付かれた。しかし、GK吉村明時の2連続好セーブや東瀨永斗、波平大芽、國吉健太の3連続得点で引き離し、勝利をつかんだ。

主将の金城藍希は「前半から速攻からのシュートが思うように決

まらず、後半に悪いムードを引きずってしまった。優勝はともううれしいけど、課題も多い」と反省した。

計5得点の東瀨は24-24の同点の場面、相手GKの動きを冷静に見極め、倒れ込みながら得点を決めた。「ハーフタイムで相手GKの脇下の辺りが弱点だと聞いて、狙った。前半からシュートを止められてプレッシャーはあったけど、最後に決めることができ良かった」と喜んだ。

吉村は守備陣と連携してシュ

男子決勝 神森-仲西 前半、神森の東瀨永斗がディフェンスの上からシュートを放つ=ANAアリーナ浦添(名護大輝撮影)

トコースを限定して相手の攻撃を抑えた。「最後まで集中力を保つことができた」と胸を張った。

チームは2年ぶり3度目の全国の頂点を目指す。金城は「もっとレベルアップし、ミスを減らして優勝をつかみたい」と意気込んだ。(平良吉弥)

仲西V 走力強化実る

女子決勝は仲西が沖繩東を31-22で下し頂点に立った。

1年から県代表として活躍している2年で主将の島尻三夏がチームをけん引した。前半の12-12では、168cmの長身を生かしたポストプレーや速攻で切り込み、連続得点して2点リードで折り返した。

島尻に相手のマークが集まる中、共に1年生の大田千紗、石川奈南はスピードを生かし、相手守備をかいくぐって得点した。後半、チームは足を使った守備で相手のパスを奪う。大田、石

川の攻撃につなげて徐々に差を広げた。

島尻は常に声を出してチームを鼓舞。9月の八重瀬町長杯に続く優勝に「練習の時から常に試合を意識して走り込みをしてきた。その成果を発揮できた」と喜んだ。

チーム最多の8得点の大田は「地区大会で神森に敗れて悔しい思いをした。けど、(県大会で)優勝できて良かった」と笑顔を見せた。石川は「全国の強豪と対戦して勝ちたい」と闘志を燃やした。

島尻チーム鼓舞

ドボールをする仲間として応援したい」と述べた。

県協会 被災地支援募る

「ハンド仲間を応援したい」

能登半島地震を受け、県ハンドボール協会の中学校専門部は試合会場で募金を集めた。毎年3月に春の全国選手権大会を開催し、今回の震災で被害にあった富山県氷見市ハンドボール協会に送金する。

大会の運営委員長で、県中学校体育連盟の新垣義乃祐専門委員長(港川中教諭)は「急ぎ募金を集めることになったが、保護者や選手、関係者からたくさんの善意が集まった。同じハン



女子を制した仲西



女子決勝 仲西-沖繩東 前半、仲西の島尻三夏が14回目のシュートを決める